

新年度が始まりました。法人団体にとって、収支決算と総会の季節です。幼稚園は、京都府に提出する会計報告の作成と監査を会計事務所に依頼します。教会も、月末には定期総会を控えています。御心にかなう歩みであることを祈ります！

私たちの収支決算

さて、この箇所は、「悪い農夫のたとえ」と呼ばれています。場面は収穫のときが来た、と記されています。言うなれば、これは決算報告のタイミングです。彼らはこれを主人に怠ったばかりか、跡取りを亡きものにして、かたをつけようとしてしました。

よほど不作だったのでしょうか。とてもひどい主人だったのでしょうか。世の中は「無理を通せば道理が引っ込む」で、長年放っておいた主人が悪いとか、農夫たちをもっと大事にすべきだったとか、そんな意見も出るかもしれません。しかし、主人の息子を殺して、財産を横取りする方法は、冷静になれば誰もが「そんなことはあってはなりません」（16節）と言う出来事です。

イエス様が彼らを見つめられた、と言う聖書の言葉は印象的です。人間の社会で、御心にかなう、収支決算など、残念ながら実はどこにも存在しません。それは、自分自身の心が一番よく知っているのではないのでしょうか。「あれよりはマシだ」と言う人との比較によっては、成り立つかもしれませんが、誰もが自分の収穫を確保しようとするとき大なり小なり「あってはならない」やり方を使っています。

エルサレムのイエス様

このたとえ話は、もう5日後にイエス様が十字架にかけられるという週の始まりに、敵対する律法学者たちに向けて、語られました。そして「人に捨てられた石が、隅の親石となった」という詩編 118 編がご自身の預言の言葉として語られました。

イエス様は、一人ひとりの人生にも収支決算があると、ここに語っておられます。しかしそれは、固く冷たい事務作業ではありません。神の愛が、世界を完成させる、力強い平和の到来を告げる、祝福の発表なのです。

その方法は、イエス様ご自身が、全世界の罪の身代わりとなって、十字架で死なれると言う手段によるものでした。誰よりもイエス様ご自身が「そんなことはあってはなりません」と祈られたでしょう。しかしその犠牲によって、救いは完成しました。

何よりもこの例え話が私たちに示していることは、「人はみな、与えられた命で生きている」ということ、決裁があるということです。その神のみわざのあらわされるとき、自分のものだと思っているものは全て、手放さなければなりません。

そのときにイエス様は、罪と悪は打ち砕かき、義しい人を苦しめた者は、押し潰されると、厳かに力強く宣言してくださいました。今朝も、十字架は輝いています。